安保法制廃止 9条改憲阻止 3候補勝利

総選挙後おこなわれた市民連合@愛知、市民と野党をつなぐ会@愛知が主催した「立憲主義を再始動し安倍改憲を止める街宣」。(左から)山本太郎自由党共同代表・参院議員、福島みずほ社民党副党首・参院議員、近藤昭一立憲民主党副代表・衆院議員、本村伸子日本共産党衆院議員＝11月12日、名古屋駅前

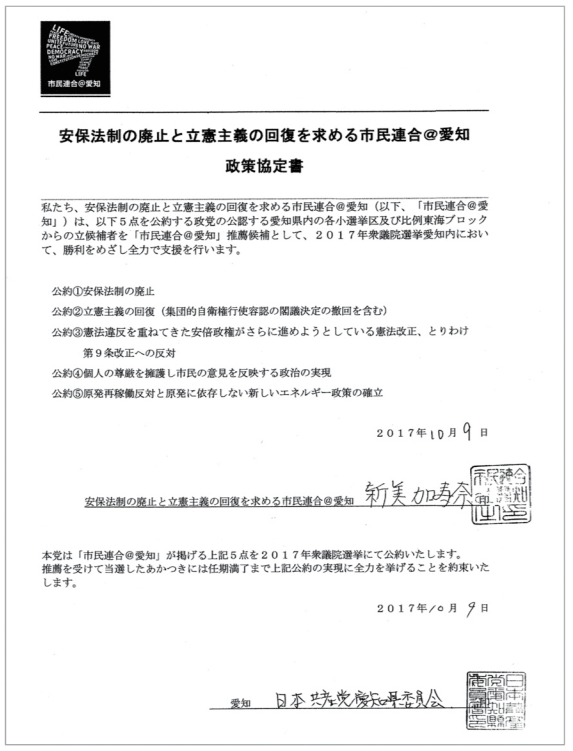
1面の続き

改憲2大政党化許さず

安倍政権は、森友・加計問題で追い詰められ、都議選の敗北で危機的事態に陥り、野党共闘が成功するなら、退陣に追い込まれかねない危機に直面していました。だから、野党共闘がととのっていないところで選挙に打って出るとともに、危機打開のために最大の脅威である野党共闘をつぶし、改憲の野望を果たすための政治体制をつくろうと、まさに〝クーデター〟としかいいようがない大掛かりな策動を仕掛けてきました。

都知事として注目されている小池百合子氏という改憲タカ派を使って、野党第1党の民進党を丸ごと改憲勢力につくりかえて野党共闘をつぶし、改憲勢力で与党と野党の2大政党体制をつくる大謀略でした。

小池氏自身は、いかにも安倍政権を打倒するかのようなポーズをとり、初の女性首相となるかのような期待を国民に抱かせながら、安倍政権の別動隊となって、連合を抱き込み、当選の見通しのたたない民進党に救いの手を差しのべるかのように装いながら、民進党を吸収して改憲政党に変質させるという役割を担いました。狙いは野党第1党を改憲政党にして2大政党体制をつくるということですから、小池氏は首相になる気などさらさらなかったのです。



安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合@愛知

政策協定書

私たち、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合@愛知（以下、「市民連合@愛知」）は、以下5点を公約する政党の公認する愛知県内の各小選挙区及び比例東海ブロックからの立候補者を「市民連合@愛知」推薦候補として、２０１７年衆議院選挙愛知内において、勝利をめざし全力で支援を行います。

公約①安保法制の廃止
公約②立憲主義の回復（集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を含む）
公約③憲法違反を重ねてきた安倍政権がさらに進めようとしている憲法改正、とりわけ第９条改正への反対
公約④個人の尊厳を擁護し市民の意見を反映する政治の実現
公約⑤原発再稼働反対と原発に依存しない新しいエネルギー政策の確立

２０１７年１０月９日

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合@愛知　新美加寿奈

本党は「市民連合@愛知」が掲げる上記５点を２０１７年衆議院選挙にて公約いたします。
推薦を受けて当選したあかつきには任期満了まで上記公約の実現に全力を挙げることを約束いたします。

２０１７年１０月９日

愛知　日本共産党愛知県委員会

市民連合@愛知と日本共産党愛知県委員会が10月9日に調印した政策協定書

野党共闘守った共産党

愛知においても私たち日本共産党は今回、民進党の希望の党への合流によって崩壊の危機にひんした野党共闘を救い出し、公示までの数日間のうちに野党共闘を再構築して選挙にのぞむために、ほんとうに身をていして努力、奮闘しました。

安倍首相は「国難突破解散」と銘打って解散を表明した9月25日、小池都知事が記者会見の最後に突如、安保法(戦争法)を容認し、9条を含む改憲を掲げる「希望の党」の立ち上げを表明したことで野党共闘つぶしのクーデター的策動が始まりました。翌日夜、神津連合会長、前原民進党代表、小池希望の党代表の3者で、野党第一党の民進党が希望の党に合流することが確認されてしまいました。

わたしは、「こんなことで野党共闘がつぶされていいのか」「このまま希望の党に合流したら自らの信念を捨てることになる」「希望に行かずに新党をつくることではだめなのか。希望に行かないのであればどんな支援もする覚悟でいる」と、関係者のみなさんとの話し合いにのぞみました。

立憲民主党の結党にいたる過程においても私たち日本共産党は、「新党を立ち上げてたたかうならば、私たちの候補者を降ろして支援する」と約束をして、立憲民主党の立ち上げを文字通り捨て身で後押ししました。

選挙協力というのは本来、相互協力、ギブアンドテイクでおこなうものです。しかし今回、私たちは野党共闘を守るために、得るものは抜きに、候補者を取り下げ、立憲民主党候補の当選のために全力で支援しました。

なぜ見返りもないのに、立憲民主党の候補者の当選のためにそこまでがんばったのか―やはり日本の民主主義を守るため、日本の未来を守るためでした。自らの利益だけでなく国民全体の幸せのためにがんばる党だからこそ、〝見返りは民主主義〟と身をていして野党共闘を守るために奮闘することができたと思います。

私は、この選挙で果たした日本共産党の奮闘は、日本の民主主義を危機から救い出し、日本の政治の新しい地平を切り開いたたたかいとして、将来にわたって語り継がれる歴史的意義をもつものと確信しています。

3面に続く

小選挙区共闘リポート

愛知1区

名古屋市東区、北区、西区、中区

愛知1区では、立憲民主党の吉田統彦(つねひこ)氏が重複立候補の比例代表で復活当選しました。

日本共産党は、10月3日の吉田氏の立憲民主党入りの表明を受け、同区で立候補を予定していた大野宙光(ひろみつ)氏を取り下げ、吉田氏を支援することを決めました。

選挙中は吉田氏と比例代表単独で立候補した大野氏、市民連合@愛知の共同街宣がおこなわれました。

日本共産党名古屋北西地区委員会が10月28日に開いた選挙報告会に吉田氏は出席。共産党の支援に謝意を述べました。

愛知1区には河村たかし名古屋市長の「減税日本」所属市議が希望の党公認で立候補しましたが、比例復活もできず落選しました。

愛知3区

名古屋市昭和区、天白区、緑区

愛知3区では、立憲民主党の近藤昭一氏が自民、希望の両候補を抑えて当選しました。

同区で近藤氏と日本共産党は、3人の弁護士が呼びかけ人となった「みんなが主人公の政治をつくる市民アクション」を仲立ちにした〝ブリッジ協定〟を結びました。市民連合@愛知は近藤氏を支援しました。

愛知3区では、安保法制＝戦争法廃止を求める運動を通じて、市民と野党の共闘が積み重ねられてきました。

民進党の希望の党への合流方針を受け、近藤氏は10月3日の朝に立憲民主党への参加を表明しました。

総選挙公示2日前の10月8日、緑区でおこなわれた近藤氏の集会に参加した日本共産党は、政策協定に〝手形〟で調印。全員で確認しました。

愛知5区

名古屋市中村区、中川区、清須市、北名古屋市、豊山町

愛知5区では、立憲民主党から立候補した赤松広隆氏が自民、希望の候補を下して勝利しました。

日本共産党は同区に公認候補として月東(がっとう)義博氏の擁立を予定していましたが、野党一本化の方向を赤松氏側と話し合い、月東氏を取り下げました。

希望の党への民進党の合流方針に、月東氏は「希望の党は共闘の相手にならない」と赤松氏側に伝えました。市民連合@愛知のメンバーも独自に赤松氏に接触。赤松氏は「自分の考えを曲げてまで希望に行くつもりはない」と表明し、立憲民主党に参加しました。

10月6日、同党と日本共産党は、市民連合@愛知を仲立ちにして〝ブリッジ協定〟を結びました。

愛知4区

名古屋市熱田区、港区、南区、瑞穂区

愛知4区では、9月末までは野党共闘で出馬することを明言していた民進党の現職議員が10月1日になって希望から出馬すると表明。昨年末から共闘を求めていた市民グループからの説得にも応じませんでした。

共闘の立場から独自候補の擁立を見合わせてきた日本共産党は急きょ、同党役員の西田とし子氏の立候補を決定。市民グループは10月7日、他の野党に出馬予定がないことを確認し西田氏推薦を決定。社民党、新社会党、緑の党も同意し、西田氏は「市民と立憲野党の共同候補」として確認されました。

個人演説会や街頭演説では社民、新社会、緑の各党幹部が応援。市民グループも独自の政策のぼりを持って街頭に立ちました。